

はじめに

政府開発援助（ODA）をより効果的・効率的なものとするため、2006年には多くの改革がなされました。2006年8月、外務省に国際協力局が新設されるのに伴い、ODAの評価を一元的に行う部署として評価室が独立したこともこの改革の一つに挙げられます。また同年11月には独立行政法人国際協力機構（JICA）法が改正されたことにより、2008年10月にJICAと国際協力銀行（JBIC）の海外経済協力業務が統合されて新JICAとなり、有償資金協力、技術協力、及び、無償資金協力の実施が一元化されることが決定されました。これにより、3つの援助手法を有機的に連携させ、効果的かつ効率的に実施していく体制が整えられましたが、評価についても新しい体制にふさわしいものとするための検討が行われています。効果的なODAを実施する上で評価の果たす役割は重要であり、評価を充実させるべく日々努力を重ねています。

そのための一つの取り組みとして、外務省では、評価の客観性・公平性を確保するため外部の有識者に依頼して第三者評価を実施しています。評価室では、学識経験者、マスコミ関係者、NGO代表者などで構成される「ODA評価有識者会議」に依頼し、毎年、多くの評価を実施し、報告書を作成しています。こうした評価により得られた提言は、ODAの政策策定や実施の改善に役立てるよう担当部局に伝達されるとともに、外務省のホームページなどを通じて一般に公開され、国民の皆様に対する説明責任を果たす一助としております。

25回目の公表となる今回の報告書では、2006年度に実施した外務省、そのほか関係府省庁、及び、実施機関（JICA、JBIC）によるODA評価の概要を紹介しています。こうした評価活動をまとめた本報告書により、国民の皆様が我が国のODA及びその評価に対する理解を一層深めて頂くことを期待しております。今後とも、ODAの更なる改善に向けて不断の努力を重ねて参ります。

この報告書の内容は、速やかに外務省ホームページ（<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/kaikaku/hyoka.html>）に掲載する予定です。また、2006年度に実施された個別の評価報告書についても、報告書全文が外務省ホームページに掲載されています。是非ご覧頂くと共に、ODA評価に関するご質問・ご意見などがございましたら、下記までお聞かせ下さい。

（外務省国際協力局評価室 e-mail : hyoka-iken@mofa.go.jp）

2007年12月

外務省国際協力局長 別所 浩 郎

表紙写真説明

現地調査の途次、日本の援助を受けた家族と交流するスリランカ国別評価チーム。

この家族は、2004年12月に発生したインド洋津波被害で家が流され、その後、国連人間居住計画（UN-HABITAT）経由で送られた日本の援助（被災地におけるコミュニティ・インフラ及び住宅再建事業）の一環で家を再建した。

移動中、たまたま玄関の横に日の丸を見つけた評価チームが訪問すると、「日本のおかげ」と家族総出の大歓迎を受けた。

この家族の家のそばを流れる川にかかる橋も津波により流失したが、日本の援助により再建された。橋の4方の支柱に、それぞれスリランカの公用語であるシンハラ語とタミル語、及び、英語、日本語の4カ国語で橋の由来が記されていた。



(2007年9月、スリランカにて)